

<報道発表資料>

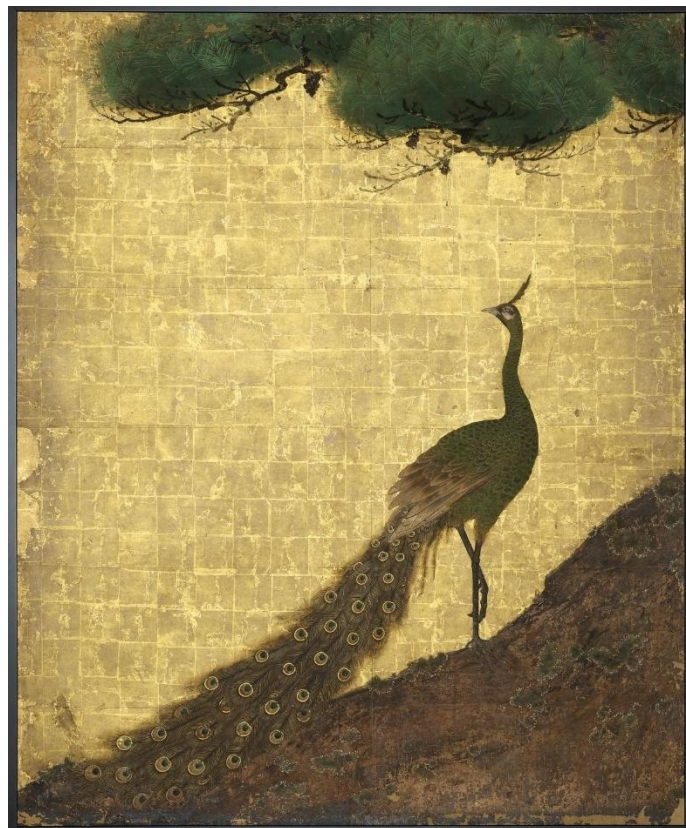
令和8年6月5日
京都市文化市民局元離宮二条城事務所

「二条城障壁画 展示収蔵館」原画公開

シリーズ寛永行幸 400 年

令和8年度夏期「将軍、着座す ～〈大広間〉三の間～」

この度、夏期原画公開「将軍、着座す ～〈大広間〉三の間～」の開催について詳細が決まりました。今回は、寛永行幸で徳川三代将軍家光（1604-51）が能を観覧した〈大広間〉三の間の障壁画を展示します。



〈大広間〉三の間障壁画《松孔雀図》北面（部分）

重要文化財（絵画）二条城二の丸御殿障壁画の大半は、徳川三代将軍家光の時代、寛永^{かんえい}3年（1626）の大規模改修に伴い、狩野派^{かのう}の絵師たちによって描かれました。元離宮二条城では、「二条城障壁画 展示収蔵館」において、二の丸御殿障壁画（重要文化財）の原画を公開します。

今年度は、「シリーズ寛永行幸400年」と題して、今からちょうど400年前に行われた寛永行幸で使用された二の丸御殿の部屋の障壁画に焦点を当て、御紹介します。

【事業概要】

- 会 期 令和8年6月13日（土）～8月11日（火・祝）
- 入館時間 午前9時～午後4時30分（閉館は午後4時45分）
※二条城の入城受付は、午後4時まで
- 場 所 元離宮二条城内 二条城障壁画 展示収蔵館
（〒604-8301 京都府京都市中京区二条城町5 4 1 番地）
アクセス：地下鉄東西線「二条城前駅」又は JR 京都駅から市バス 9、
50号系統「二条城前」下車すぐ
- 入 館 料 100円（未就学児無料）
※別途入城料が必要。
※市内に在住・在学の小中学生、市内在住の70歳以上の方（敬老乗車証等で住所、年齢を確認できる方）、各種障害者手帳等をお持ちの方、二条城の入城料、二之丸御殿観覧料及び本丸御殿観覧料がいずれも免除される方の入館料は、不要です。
- 公開作品 〈大広間〉三の間障壁画《松孔雀図（まつくじゃくず）》（障壁画面数：29面）
- 主 催 京都市文化市民局元離宮二条城事務所



〈大広間〉三の間障壁画《松孔雀図》北面（部分）

<解説と見所について>

徳川二代将軍の秀忠（1579～1632）は、娘の和子（1607～78）を後水尾天皇（1596～1680）に嫁がせ、徳川将軍家は天皇家の外戚となりました。将軍職を三代家光（1604～51）に譲り、大御所となった秀忠は、天皇を二条城に招くために、二条城の大規模な増改築を命じました。二条城を創建した徳川家康（1543～1616）の時代に造られた御殿も大改修され、二の丸御殿となりました。

寛永行幸は5日間行われ、4日目には、〈大広間〉の南側に設けられた舞台上で能が上演されました。観覧席は、二の丸御殿の中に設けられ、天皇の席は能舞台の正面となる〈大広間〉二の間に置かれました。南側に御簾を掛け、そのそばに御座畳を敷いた茵が設けられ、天皇は大床を背景に能を觀賞しました。一方、将軍の席は三の間に置かれました。南側に御簾を掛け、席の周囲を屏風で囲い、また四の間との境にも御簾が掛けられました。三の間は、二の間の天皇をもてなしながら、四の間や式台といった背後に多くの家臣が出仕することができる空間を備えた、将軍の座として適した場所でした。

こうした空間とともに注目されるのが障壁画です。寛永行幸に際して、二の丸御殿の障壁画は狩野派によって一新されました。〈大広間〉一の間から四の間には、金地に巨大な松が描かれており、松には繁栄や長寿といった吉祥の意味が込められていると考えられます。また、二の間には五羽、三の間には一羽の孔雀が描かれています。さらに、三の間と四の間の境にある欄間の三の間側には、四羽の孔雀が彫刻されており、二の間と三の間の境にある欄間の二の間側には、鳳凰が彫刻されています。孔雀や鳳凰は、縁起の良い瑞鳥とされ、天皇や将軍を迎える場にふさわしい題材であったといえるでしょう。

二の丸御殿に天皇を招いて能を鑑賞することは、徳川家の繁栄を視覚的に示すことの一つであったと考えられます。将軍は三の間に座し、二の間の天皇の様子に細やかな心配りをしていただことでしょう。最上級のもてなしで天皇を歓待しつつ、幕府の威勢を巧みに示していたのです。

<お問合せ先>

京都市文化市民局元離宮二条城事務所

電話：075-841-0096